Press Release

株式会社リクルート

2023年1月16日

高校教育改革に関する調査2022「進路指導・キャリア教育」編

高校教員が思う「特に必要な社会人基礎力」【課題発見力】が過去最高スコアに。1位は前回同様【主体性】。アントレプレナーシップ教育の導入・検討は約2割

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）が運営する、『リクルート進学総研』（所長：小林 浩）は、高校の教育改革に関する現状を明らかにするため、全国の全日制高校に対して、新学習指導要領、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革等の取り組みに関する調査を実施いたしましたので、結果をご報告いたします。本調査によるリリースは「新学習指導要領・ICT活用」編、「進路指導・キャリア教育」編の計2つあり、本リリースは「進路指導・キャリア教育」編です。※本調査は 『キャリアガイダンス』編集部と『リクルート進学総研』が隔年で実施しており、今回で第22回目を迎えます。

キャリア教育と探究活動について

- キャリア教育を実施する時間は「総合的な探究（学習）の時間」が77.6%でトップ。
- 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりとして、「志望校や志望分野選びにつながる」が前回比＋2.7ポイント。
- キャリア教育を進めていく上での今後の課題は「教員の負担の大きさ」が67.8%がトップ(前回比＋4.8ポイント)。「実施時間の不足」（前回比＋5.3ポイント）とともに前回よりスコアが上昇。

進路指導上の課題とこれからの社会について

- 進路指導上の課題は、「教員が進路指導を行うための時間の不足」がトップ。以下、「入学者選抜の多様化」「進路選択・決定能力の不足」が5割台で続く。
- 「これからの社会の好ましさ」について、全体の42.8%が、生徒にとってこれからの社会が「とても好ましい社会だ」「まあまあ好ましい社会だ」と回答。一方で、「あまり好ましい社会ではない」「非常に好ましくない社会だ」が55.5%と、前回の36.4%から19.1ポイントと大きく上昇した。

社会人基礎力とアントレプレナーシップ教育について

- 「特に必要とされる」と思う社会人基礎力の1位は「主体性」（50.6%）、2位「課題発見力」（47.4%）。「課題発見力」は前回から５.0ポイント上昇。
- 「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力は、「規律性」が55.1%と突出。「傾聴力」（34.0%）、「柔軟性」（22.5%）と続き、上位3つの順位は前々回から変わらず。
- 「アントレプレナーシップ教育」について、「導入・活用している」「導入・活用を検討している」を合わせると18.1%。「導入・活用をしていないし、する予定もない」が過半数を占める。課題や不安として「学校体制」「生徒への必要性」などのコメントが挙がっている。

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校教育改革に関する調査2022」リクルート進学総研調べ”と明記いただけま すようお願い申し上げます。

本件に関する お問い合わせ先

https://www.recruit.co.jp/support/form/
『リクルート進学総研 』 WEB サイト： https://souken.shingakunet.com/

【調査概要】

■ 調査目的：全日制高校で行われている教育改革（新学習指導要領、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革に関する取り組みなど）の実態を明らかにする。

■ 調査期間：2022年8月4日（木）～9月9日（金）投函・インターネット回答締め切り

※2022年9月13日（火）郵送到着分までを集計対象とした。

■ 調査方法：郵送調査＋インターネット調査

※校長・進路指導宛てに調査票を郵送、回答を記入の上郵送または記載のURLからインターネット回答

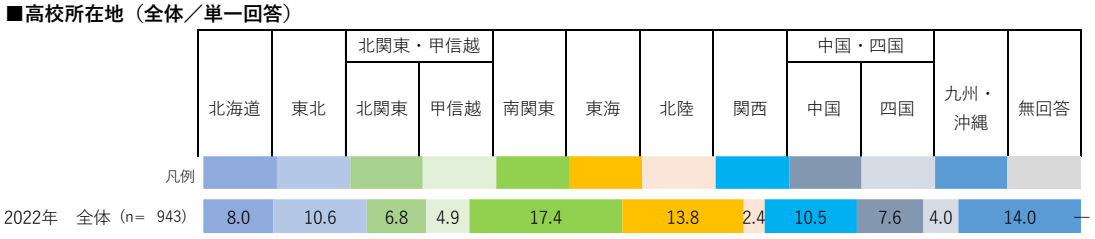
■ 調査対象：全国の全日制高等学校4721校

■ 集計対象数：943件（回収率20.0%）

注）例年隔年インターバルで実施しているが、前回調査は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により当初予定2020年を2021年に変更し実施。また、2016年（第19回）までは高校の進路指導やキャリア教育の実態を明らかにするため「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」として実施。

【回答校プロフィール】

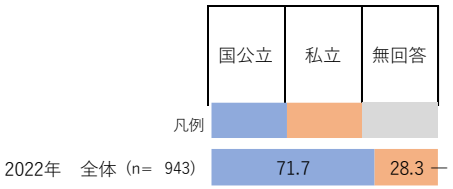
■高校所在地（全体／単一回答）



(%)

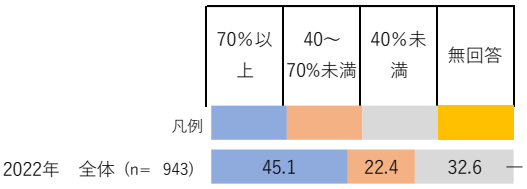
北関東・甲信越	中国・四国
11.7	11.7

■高校設置者（全体／単一回答）



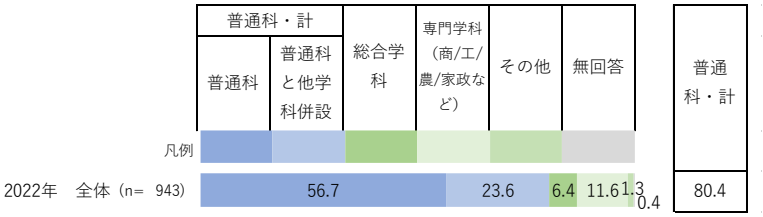
(%)

■大学・短大進学率（全体／単一回答）



(%)

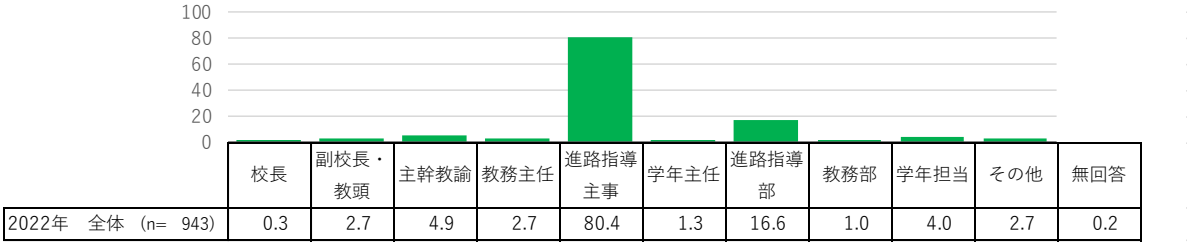
■高校タイプ（全体／単一回答）



(%)

普通科・計
80.4

■回答者の校務分掌（全体／複数回答）



(%)

	校長	副校長・教頭	主幹教諭	教務主任	進路指導主事	学年主任	進路指導部	教務部	学年担当	その他	無回答
2022年　全体（n= 943）	0.3	2.7	4.9	2.7	80.4	1.3	16.6	1.0	4.0	2.7	0.2

調査に対する『キャリアガイダンス』編集長　赤土 豪一の見解

■ 「課題発見力」「課題に向き合う力」が、今後ますますキーワードに

全日制高校で行われている教育改革について明らかにする本調査。
今回、特に着目したのが社会人基礎力に対しての設問である。先生が生徒に対して、将来的に「特に必要とされる」と思う力は、主体性・課題発見力・実行力・創造力と続く。中でも、「課題発見力」は前回から５.0ポイント上昇。一方で、「生徒が現在持っている」と考えるのは、規律性・傾聴力・柔軟性。求める力と現状に大きなかい離が見受けられる。この差を、今年度から始まった「総合的な探究の時間」を通して埋めていけることに期待したい。探究学習は、課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現というステップで学びが進んでいく中で、日常生活や社会に目を向け、自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題に向き合う必要があるため、まさに上記観点に適した学びと言えそうだ。

また、１歩先の話ではあるが、小中学校や高校にも導入することが検討されているというアントレプレナーシップ教育。実際に、ニュース等においてもその単語を耳にすることが増えてきた。今回の調査によると、導入・検討は現時点では約2割にとどまる。「アントレプレナーシップ教育の導入に取り組むにあたっての課題や不安」のフリーコメントから推察するに、普段の授業へ落とし込むのは、一見難易度が高いと捉えられているように感じる。しかし、『キャリアガイダンス』編集部で独自に取材を進めていくと、「すでに高校現場で取り組んでいるもの」の中に、アントレプレナーシップ教育の要素が多く盛り込まれているように感じた。例えば、自分たちの手で学食をより良いものにするための学校を挙げての活動や、栽培から販売方法までのすべてを生徒たちが考えるジャムの製造など。こういった取り組みの中で、アントレプレナーシップは大いに育まれるそうだ。すなわち、高校現場ですでに行われている取り組みの中には、意識を少し変えるだけでアントレプレナーシップ教育も兼ねることが可能な活動が多く存在するのである。

時代の変化に伴い入試の在り方も変わり、総合型選抜ではますます「何をしてきたか？」「何を学んでいきたいか？」を問われていく中で、高校現場での学びの変化について、引き続き注目していきたい。

キャリアガイダンス編集長
赤土 豪一
SHAKUDO Goichi

大学卒業後、新卒で株式会社ベネッセコーポレーションへ入社。マーケティング・教材開発へ従事。その後、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（現リクルート）へ転職。以降、アナログ／デジタルを問わず、一貫してスタディサプリにおける高校生向けキャリア教育プログラムの開発に従事。『スタディサプリ進路』編集デスクを経て、2021年4月より、『キャリアガイダンス』編集長へ就任。

■ 調査報告書は『キャリアガイダンス』vol.445号にも掲載

『キャリアガイダンス』は、全国約 5,000 校の高校へお届けしている進路指導とキャリア教育の専門誌です。Vol.445号（2023年1月20日発行）では、本調査のレポート「高校教育改革の今と未来」のほか、「アントレプレナーシップとは何か？」を特集します。

キャリア教育と探究活動について

■キャリア教育を実施する時間は「総合的な探究（学習）の時間」が77.6%でトップ。

・「教科の時間」「長期休暇の課題として」「修学旅行や遠足」は緩やかな低下傾向。

■「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりとして、「志望校や志望分野選びにつながる」が前回比＋2.7ポイント。

・「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」は前回比＋1.7ポイント。

・一方で「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」は前回より14.3ポイント低下。

■キャリア教育を進めていく上での今後の課題は「教員の負担の大きさ」がトップ。「実施時間の不足」とともに前回よりスコアが上昇。

・「教員の負担の大きさ」が67.8%（前回比＋4.8ポイント）

・「実施時間の不足」は48.7%（前回比＋5.3ポイント）

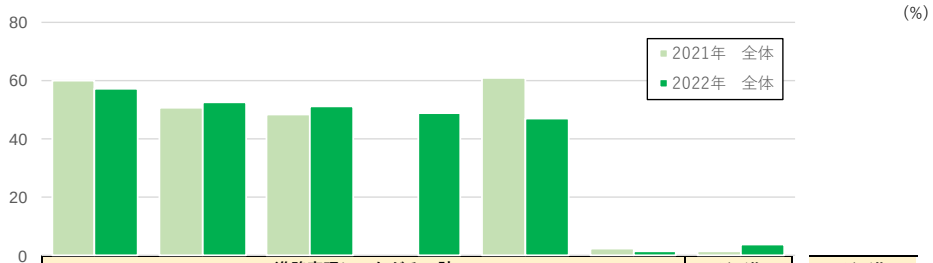
■ キャリア教育実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

（%）

	2022年 全体 (n= 926) %	順位	2021年 全体 (n=1,139) %	順位	2018年 全体 (n=1,162) %	順位	2016年 全体 (n=1,076) %	順位	2014年 全体 (n= 989) %	順位
総合的な探究（学習）の時間	77.6	1	78.9	1	77.5	1	79.5	1	79.8	1
教科の時間	18.5	5	19.2	4	22.6	5	22.5	5	29.2	4
キャリア・ガイダンス等を内容とする学校設定科目	15.3	6	16.6	6	12.6	8	7.8	11	8.5	11
生徒会活動	6.2	10	6.2	11	10.8	9	9.9	9	9.6	9
部活動の時間	5.6	11	6.9	10	7.0	12	9.8	10	9.1	10
ホームルーム活動	67.6	2	67.3	2	56.7	2	66.1	2	64.4	2
ショートホームルーム	9.5	9	8.8	9	8.3	10	10.4	8	10.4	8
文化祭や体育祭等の学校行事	13.0	8	12.8	8	16.4	7	15.7	7	16.3	7
長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として	18.9	4	19.2	4	23.1	4	24.2	4	24.7	5
修学旅行や遠足	14.8	7	14.9	7	17.0	6	18.7	6	18.6	6
宗教・道徳等の時間	1.2	13	1.5	13	1.5	13	1.5	13	1.9	13
普段の学校生活全般の中で	24.6	3	27.8	3	24.5	3	26.7	3	30.6	3
その他	5.0	12	4.4	12	7.2	11	6.4	12	7.4	12
無回答	—		—		0.6		0.3		—	

※「総合的な探究（学習）の時間」：2018年以前は「総合的な学習の時間」として調査
※「ホームルーム活動」：2016年以前は「ロングホームルーム」として調査

■ 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え（全体／複数回答）



		進路実現につながる・計							
		地域や社会への興味・関心が高まる	総合型選抜、学校推薦型選抜等入学者選抜に活用できる	志望校や志望分野選びにつながる	自己の生き方・在り方につながる	前向きな進路選択の態度の醸成につながる	その他	進路実現につながると思わない	進路実現につながる・計
2022年　全体	(n= 943)	57.4	52.4	51.3	48.7	46.9	1.4	3.9	95.2
2021年　全体	(n=1,156)	60.1	50.7	48.6	*	61.2	2.6	1.8	97.9
【2022年属性別】									
大学・短大進学率別 95%以上	(n= 161)	49.1	46.0	59.6	47.8	50.3	3.1	3.7	95.7
70～95%未満	(n= 264)	51.9	62.9	60.6	53.0	51.1	1.9	3.8	96.2
40～70%未満	(n= 211)	69.2	63.5	53.6	44.5	46.9	—	2.4	96.7
40%未満	(n= 307)	58.3	39.1	37.5	48.2	41.4	1.0	5.2	93.2

※「2022年全体」と比較して　■+10pt以上高い　／　■+5pt以上高い　／　0.0-5pt以上低い

※「*」は該当の項目なし

■ キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

(%)

		2022年 全体 (n= 943)		2021年 全体 (n=1,156)		2018年 全体 (n=1,203)		2016年 全体 (n=1,105)		2014年 全体 (n=1,140)	
		%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位
負担・時間	教員の負担の大きさ	67.8	1	63.0	1	53.1	1	64.9	1	67.7	1
	実施時間の不足	48.7	2	43.4	2	36.9	3	48.1	2	47.9	2
教員	教員の知識・理解不足	42.6	3	39.3	3	34.2	4	39.9	4	45.2	3
	教員間の共通認識不足	36.6	4	35.7	4	39.0	2	41.8	3	40.6	4
	教員の指導力不足	27.5	5	24.7	5	24.9	5	28.1	5	26.8	5
	教員が変化を望まない	21.5	7	18.7	8	15.5	9	16.1	9	20.9	8
	管理職のリーダーシップ	16.4	10	13.3	10	9.1	10	10.0	10	14.9	10
生徒	生徒の意欲や学力の低下・欠如	17.3	9	17.6	9	15.9	8	19.0	8	25.8	6
定義・評価	定義があいまい	25.6	6	21.6	6	17.5	7	23.0	6	24.1	7
	評価軸がない、評価の方法が不明確	20.6	8	21.0	7	20.8	6	20.0	7	16.8	9
	その他	1.5	11	1.6	11	2.5	11	4.3	11	2.5	11
	特にない	2.3		2.2		4.4		*		*	
	無回答	0.8		1.0		2.5		2.4		2.7	

※カテゴリーごとに降順ソート

※2014・2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

進路指導上の課題とこれからの社会について

■進路指導上の課題は、「教員が進路指導を行うための時間の不足」がトップ。以下、「入学者選抜の多様化」「進路選択・決定能力の不足」が5割台で続く。

・保護者の問題は「保護者が干渉しすぎること」が前回から大きく上昇。学校の問題は「教員が進路指導を行うための時間の不足」「校内連携の不十分」でスコアが上昇している。進路環境の問題は「入学者選抜の易化」「入学者選抜の多様化」で前回から、「仕事や働くことに対する価値観の変化」で継続的な上昇傾向がみられる。

■「これからの社会の好ましさ」について、全体の42.8%が、生徒にとってこれからの社会が「とても好ましい社会だ」「まあまあ好ましい社会だ」と回答。一方で「あまり好ましい社会ではない」「非常に好ましくない社会だ」が55.5%と、前回の36.4%から19.1ポイントと大きく上昇した。

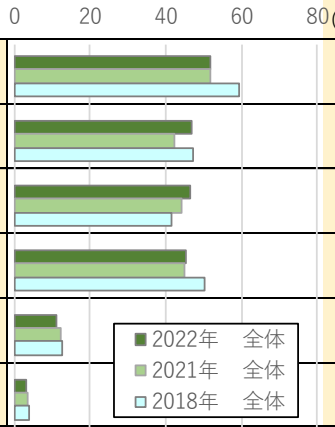
・「好ましい」と回答した理由に「主体性や個性が尊重される時代」「技術の発展」など。

・「好ましくない」と回答した理由に「経済や政治情勢への懸念」「格差の広がり」「環境の複雑化」など。

■ 進路指導上の課題（全体／複数回答）

（%）

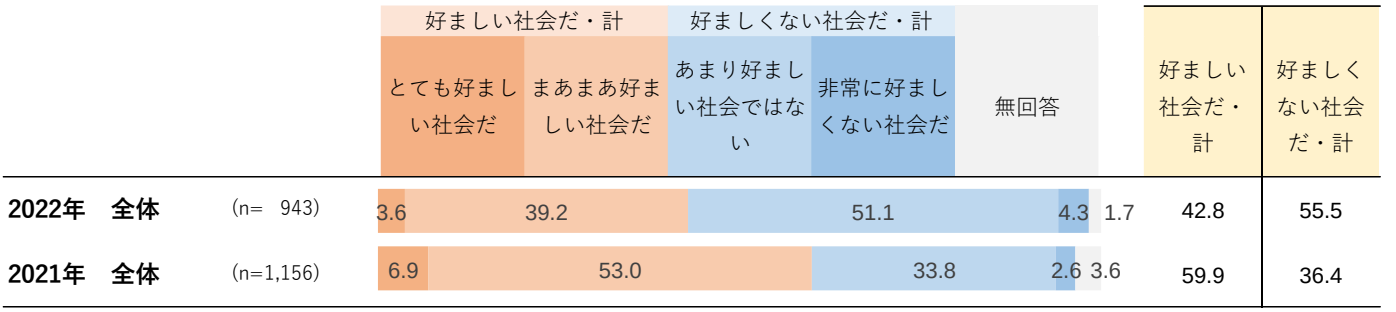
		2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)	2018年 全体 (n=1,203)
生徒の問題	進路選択・決定能力の不足	**51.9**	51.8	59.3
	学力低下	**46.9**	42.4	47.3
	職業観・勤労観の未発達	**46.4**	44.1	41.7
	学習意欲の低下	**45.5**	45.0	50.3
	規範意識・道徳意識の低下	**11.2**	12.3	12.5
	生徒の問題・その他	**3.1**	3.6	3.8
保護者の問題	進路環境変化への認識不足	**45.4**	43.3	42.6
	保護者が干渉しすぎること	**43.6**	35.0	33.8
	家庭・家族環境の悪化：家計面について	**33.4**	33.4	40.2
	子どもに対する過剰な期待	**29.0**	27.3	29.2
	子どもに対する無関心・放任	**26.5**	29.2	30.8
	家庭・家族環境の悪化 ：家計以外の面 について	**16.0**	14.6	14.4
	学校や教員への非協力	**10.2**	11.8	7.9
	保護者の問題・その他	**3.0**	2.2	2.3
学校の問題	教員が進路指導を行うための時間の不足	**62.6**	57.0	58.0
	旧態依然とした教員の価値観	**31.6**	33.4	29.0
	校内連携の不十分	**29.9**	24.7	27.9
	教員の実社会に関する知識・経験不足	**26.4**	26.6	27.2
	教員の意欲・能力不足	**21.6**	22.8	22.0
	生徒とのコミュニケーション不足	**12.7**	14.9	14.6
	学校の問題・その他	**3.9**	2.8	3.0
進路環境の問題	入学者選抜の多様化	**55.2**	48.6	50.6
	仕事や働くことに対する価値観の変化	**38.6**	34.3	30.0
	産業・労働・雇用環境の変化	**30.1**	39.1	28.2
	上級学校の学費高騰	**24.8**	22.7	25.5
	入学者選抜の易化	**23.0**	13.5	20.4
	高卒就職市場の変化	**8.2**	14.1	14.2
	進路環境の問題・その他	**1.8**	1.3	2.6



※カテゴリーごとに降順ソート

■ 「これからの社会」の高校生にとっての好ましさ（全体／単一回答）

(%)



「これからの社会の好ましさ」への回答の理由（フリーコメント）

■「好ましい」と思う理由

- 自由、多様化が進んでいるため。[大阪府/国立/普通科]
- 自分がやりたいことを見つけることが困難な時代であるが、自分の挑戦したいことを見つけることができさえすれば、応援してもらえる環境になってきているから。[佐賀県/県立/普通科]
- これから日本の経済が良くなっていくのは難しいかもしれないが、多様な価値観が認められる世の中になってきているので、自己実現が達成されやすいと考えるから。[北海道/道立/普通科]
- 今まで発展しなかった分野も、新たな環境で育った生徒たちによって切り拓かれると期待できる。[埼玉県/私立/普通科]
- 多くの生徒にとっては安全で、努力することにより自らの進路決定が可能であるから。[長野県/県立/普通科]
- 生徒はICT機器をはじめ新しい時代に対応したデジタルコンテンツの活用能力が高く、自分のやるべきことを見つけ社会に貢献できる人材になり得ると思うので。[福岡県/県立/普通科]
- 情報技術の発達により、より便利な社会になっていくから。[愛知県/県立/普通科]
- 社会は変化し続けていて、若者はそれを受け入れ対応できているから。[群馬県/県立/普通科]

■「好ましくない」と思う理由

- 日本の若者や弱者への政策不足や、経済状況の悪化の改善への見通しができないため。[東京都/私立/普通科]
- ロシアによるウクライナ侵攻、中国の覇権主義など、これまでのような単純な国際的枠組みが崩壊しつつあるため。[京都府/私立/普通科]
- 経済・教育格差が広がっていると感じるから。[兵庫県/県立/普通科]
- 学力・意欲ともに二極化が進み、格差が拡大していく恐れがある。[岩手県/県立/普通科]
- 環境、資源、少子化などさまざまな制約の中で生きていく必要がある社会になると思われるから。[北海道/道立/普通科]
- 短期的には感染症拡大による諸活動の制限が問題であり、長期的には日本の人口減・AIとの共存など、厳しい未来が予想されるから。[埼玉県/私立/普通科]
- 先行き不透明感が強いため。[静岡県/県立/普通科]
- 個人をとりまく環境の変化への対応が多様化しているので個人で切り開く能力が問われるため。[広島県/私立/普通科]
- ネットとの付き合い方がより一層複雑化していく気がするため。[埼玉県/県立/普通科]

社会人基礎力とアントレプレナーシップ教育について

■将来「特に必要とされる」と思う社会人基礎力は1位「主体性」（50.6%）、2位「課題発見力」（47.4%）。

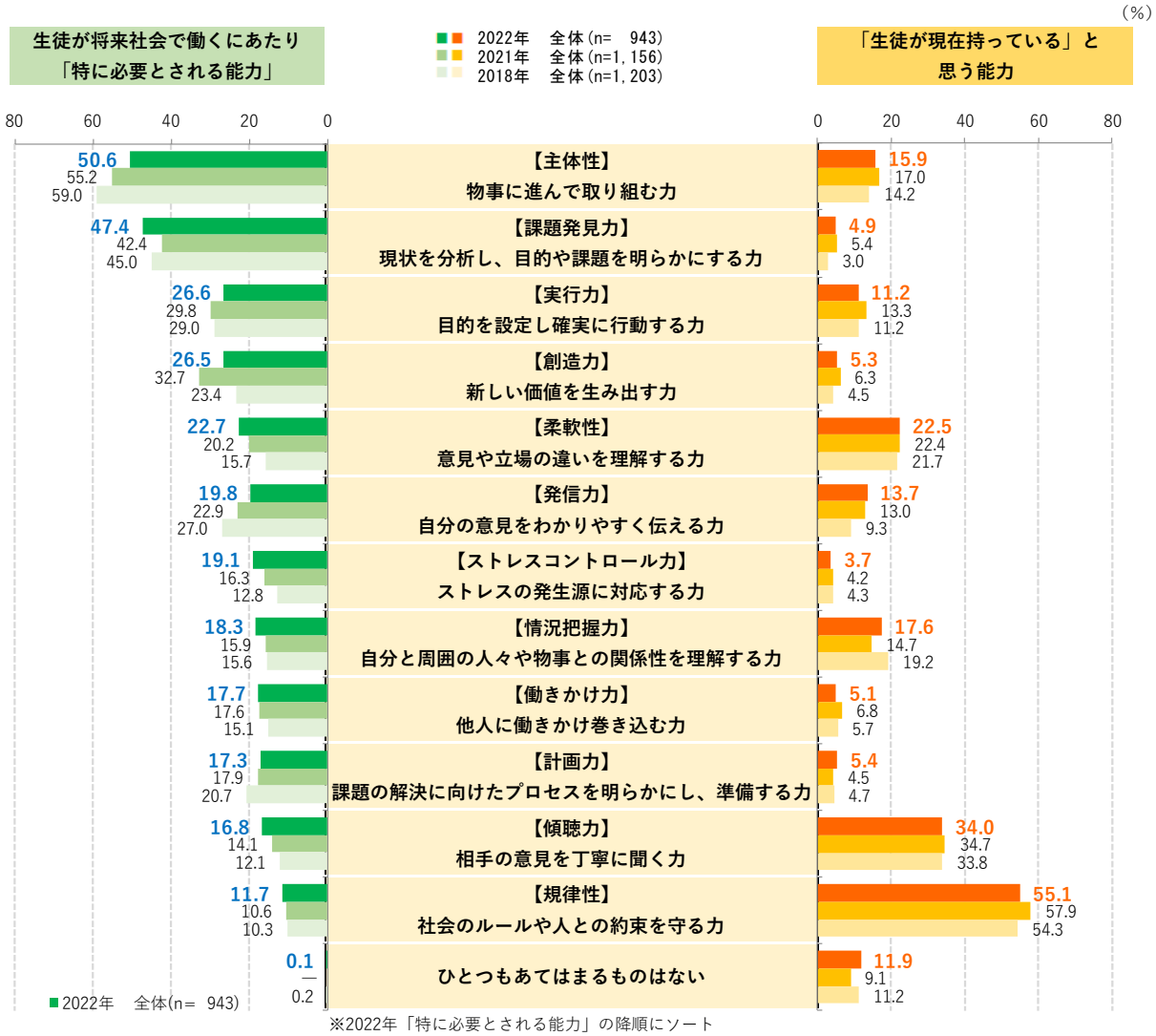
・時系列でみると、上位となる項目に大きな変化はみられないが、「主体性」のスコアは前々回から連続で低下。一方、「課題発見力」は前回から５.0ポイント上昇。

■ 「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力は、「規律性」が55.1%と突出。「傾聴力」（34.0%）、「柔軟性」（22.5%）と続き、上位3つの順位は前々回から変わらず。

■「アントレプレナーシップ教育」について、「導入・活用している」「導入・活用を検討している」を合わせると18.1%。「導入・活用をしていないし、する予定もない」が過半数を占める。

・ 「アントレプレナーシップ教育」の導入に取り組むにあたっての課題や不安に「学校体制」「生徒への必要性」などのコメントが挙げられている。

■ 生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人能力と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／各年３つまでの複数回答）



※2022年「特に必要とされる能力」の降順にソート

■ 「アントレプレナーシップ教育」の導入状況（全体／単一回答）

(%)

			導入／検討中・計		導入・活用をしていないし、する予定もない	わからない	無回答	導入／検討中・計
			学校全体、もしくは一部で導入・活用している	導入・活用していないが、導入・活用を検討している				
2022年　全体		(n= 943)	9.5	8.6	58.7	22.8	0.3	18.1
設置者別	国公立	(n= 676)	8.7	7.7	59.6	23.7	0.3	16.4
	私立	(n= 267)	11.6	10.9	56.6	20.6	0.4	22.5
高校タイプ別	普通科	(n= 758)	8.8	8.6	60.4	22.0	0.1	17.4
	総合学科	(n= 60)	8.3	8.3	53.3	28.3	1.7	16.7
	専門学科	(n= 109)	15.6	9.2	49.5	24.8	0.9	24.8
大短進学率別	70%以上・計	(n= 425)	11.1	6.6	58.6	23.8	—	17.6
	95%以上	(n= 161)	11.2	5.6	58.4	24.8	—	16.8
	70～95%未満	(n= 264)	11.0	7.2	58.7	23.1	—	18.2
	70%未満・計	(n= 518)	8.3	10.2	58.9	22.0	0.6	18.5
	40～70%未満	(n= 211)	8.1	13.7	56.4	21.3	0.5	21.8
	40%未満・計	(n= 307)	8.5	7.8	60.6	22.5	0.7	16.3

※全体値と比較して　+5pt以上高い

「アントレプレナーシップ教育」の導入に取り組むにあたっての課題や不安

（フリーコメント）

・やはり起業意識の醸成を実現できる教員が不足している。また、外部（企業）との連携ネットワークを持っている教員、持っていない教員の格差が大きい。[京都府/私立/普通科]

・どうしたら実務経験者と持続的な関係を築くことができるかが課題。[大阪府/市立/普通科]

・担当する教員の負担が大きい。[神奈川県/県立/普通科]

・関心はあるものの、探究活動やICTの導入など、優先度の高い他の教育活動で精いっぱいの感がある。教員の働き方改革も叫ばれる現在、さらなる教育活動の拡大には慎重にならざるをえない。[島根県/県立/普通科]

・教職以外の経験に乏しい教員が、どこまで教えることができるのか不安である。[広島県/県立/普通科]

・一般的に言って、教員があまり持ち合わせていない精神の教育に校内の組織のみで取り組むのは難しい。[茨城県/県立/総合学科]

・生徒が必ずしも意欲的でない。時間も不足している。[長野県/県立/普通科]

・全高校生に必要な素養だとは思えない。[埼玉県/県立/普通科]

・探究学習が深化してくると、自然発生的にアントレプレナーシップ教育が必要になってくると思うが、今はその段階ではない。[福島県/私立/普通科]

・基礎的な知識や技能の向上が最優先課題と考えている。知るからこそ面白みが理解でき、そこから創造が広がり、アントレプレナーシップにつながると考える。[神奈川県/県立/普通科]

・高校生段階での導入は、真摯な社会人としての生き方よりも、安易な進路選択を導く危険性につながる、という不安がある。[神奈川県/県立/普通科]

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング＆ソリューション、人材派遣の３事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
リクルートグループ：https://recruit-holdings.com/ja/　　リクルート：https://www.recruit.co.jp/